

例会報告：2015年3月3日（曇り） 第1880回 通常例会

会場：小田原卸センター内会議室
日時：2015年3月3日 12：30～13：30

❖ 会長挨拶



太田 忠 副会長

本日は齋藤会長がお休みの為、代わりに挨拶をさせていただきます。テーマは本日3月3日はひな祭りですので、その起源についてお話をさせていただきます。
日本のひな祭りのルーツは3世紀前後（201年～300年）の古代中国で行った風習に基づくと言われていました。

中国では「季節の変わり目は災いをもたらす邪気が入りやすい」と考えられ、3月最初の巳の日に水辺で禊（みそぎ）を行ったり、盃を水に流して自分の所に流れ着くまでに歌を読む「曲水の宴」を行う風習がありました。これがやがて遣唐使によって日本に伝えられ、禊の神事と結びつきます。

当初は天皇をお祓いする為の儀式であったものが、平安時代には宮中行事へと変化したと言われていました。川のほとりに男女が集まり、紙などでかたどった人形（ひとがた）で自分の体を撫でて穢れ（けがれ）を移し、川や海に流す儀式が行われるようになり、現在でも日本各地で行われている「流し雛」はこの名残と言われています。

やがて室町時代になると、日付が変動しないよう3月3日と決められ今の様に人形を飾り、女性の御祭りとなったのは江戸時代だそうです。

もともとは男女の区別なく行われていた行事でしたが、端午の節句が男の子の節句として祝われるようになった事に対して、3月3日が女の子の節句として定着するようになったのです。

❖ 幹事報告



大川 久弥 幹事

1) 皆様のもとに新会員決定のお知らせが届いていると思いますが、明日までに異議が無ければ正式に入会となりますので、皆様で温かく迎えて下さります様お願い致します。

2) 本日ボックスに配布しましたが、4月7日に創立記念例会を報徳会館で開催しますので、100%の出席率を目指して、できるだけ多くの会員に参加して下さい様お願い致します。

❖ 委員会報告

国際奉仕委員会・本多委員長

先月お話ししたモンゴル訪問の日程が急に変更になりました。モンゴルへRI会長が訪問することになり、それに合わせてずれました。出発は5/15（金）で、月曜日には成田に着きますし、直行便となって料金も安くなる予定です。細かい報告は来週いたします。

柳井次年度幹事

3/10の11時から談話室で第1回準備理事会を開催いたします。理事の方はご参加お願いいたします。

ローターアクト・絆持会長

先日は私たちの年次大会にたくさんのご参加をいただき、ありがとうございました。横須賀で行われ、ディベートと軍港クルーズを企画し、楽しかったと皆さんからお声をかけていただきました。インターアクトの方々も来てくださり、卒業生の中から2名、ローターアクトの会員になっていただきました。今年度4名増えてようやく12名となりました。16名が目標ですので残りの期間で頑張っていこうと思います。3/8にはイトーヨーカドーの前で献血例会、3/21はマロニエ広場でフリーマーケットの予定です。出品できるものがありましたらご協力お願いいたします。

❖ 出席報告

小川 和夫 委員長

出席報告	会員数	出席	M.U	出席率
3月3日	48(44)	35	1	81.82%
2月24日	48(46)	39	1	86.96%
2月17日	48(42)	31	1	76.19%

【欠席者】9名

一寸木 信雄、守屋 善男、石内 正彦、上田 博和、大川 裕、一寸木 芳行、中村 維孝、齋藤 永、木村 啓滋

【今回MU】1名

齋藤 永 (2/20 小田原RC)

【前回MU】増加なし

【前々回MU】増加なし

❖ 卓話

**「ロータリーの留学から生まれた夢
～私が福島で旅行を作る理由～」**



**元・青少年交換学生
島田 綾子 様**

私は小田原城北RCから2009年度にフランス派遣として青少年交換プログラムに参加させていただきました。5年前の派遣から今に至るまで、ロータリーの留学をきっかけに頑張っていますので、その感謝と報告をお伝えしたいと思います。

ロータリーの留学から生まれた夢、私が福島で旅行を作る理由からお話しします。青少年交換プログラムは世界中の高校生3千人くらいを1年間交換する留学プログラムです。私は2009年度フランス派遣として1970地区・フランスのロレーヌ地方に派遣されました。私は1992年生まれで22歳、横浜市立大学3年生でROTEXでもあります。ROTEXは留学生や派遣候補生の支援をするOBOGの呼び名です。趣味は和太鼓。小田原市生まれで小田原高校出身です。高校2年の時にロレーヌ地方へ留学しました。その後、1つ下の学年に復学し横浜市立大学国際総合科学部に入学しました。去年10月からは休学して福島におり、今年9月からまた復学する予定です。

ロータリーの留学は私に夢を与えてくれました。フランスは初めての海外で文化へのカルチャーショックが強かったです。女性は家事に時間をかけず働くのが当然、自分のことは自分でするのが当然、家族の絆は強い、という国です。1年間いて友人もできたので、嫌だと感じたことも受け入れられましたが、短い旅行では分からなかったと思います。そこで、1週間でもその国の良さを体験できる旅行があったらいいのに、人と交流して色々な体験を通してその国を知る旅行ができれば、と考えるようになりました。それが私の夢になったのです。

日本に来た人が有名な観光地を見て美味しいものを食べて…それで楽しんでもらうのももちろん良いことです。でも意味や起源も分かって、日本が自分にとって友達や家族のいる場所、また帰ってきたい場所となるような旅行ができれば、もっと世界は平和になると思います。どうしたらもっと楽しく解ってもらえるだろうか？どんな体験・出会いがあったらその国を好きになれるのか？大学入学前の春休みにフィリピンに留学してみました。語学学校へ通って他の国の若い人たちと助け合いながらチャレンジできるのが魅力でした。しかし地元の暮らしには触れる機会がなかったので、その後もどういった体験がより良いものなのか考える学生生活が続きました。アジア太平洋青年会議、小田原市姉妹都市交流などに参加し、英語部で鎌倉でのガイドボランティアもしました。

ROTEX活動も大きな核となる部分です。この学生のために何ができるか、より力を発揮してもらうにはどうすべきか、を考えて行事を企画したり手伝ったりしたことは自分の勉強になりました。

昨年、内閣府青年国際交流事業「世界青年の船」に参加しました。85名の日本青年と世界9ヶ国から80名の青年たちが参加して1ヶ月間過ごします。ディスカッションや文化交流などを行いながらグローバルリーダーとしての在り方を勉強していくプログラムでした。この中で寄港地活動委員会の委員長として、寄港した石巻でのプログラムを企画運営しました。トルコにも派遣されて、宗教に対する意外に自由で多岐な考え方や、お互いを認め合う姿勢に感銘を受けました。その中で参加した青年たちに「何が一番良かったか」「何が印象的だったか」を聞いたら、多くの青年が「ホームステイ」を挙げました。言葉は通じなくても温かく接してくれた、日本の本当の暮らしが知れた、と。それだけ異文化は魅力的であり、その体験が学びや喜びになるのだと実感しました。日本の青年たちにも自分の夢を追いかける仲間たちができたことから、去年10月から福島で活動しています。

考えていたのは感考（かんこう）旅行です。ただ見て歩くだけでなく、感じて考える旅行。そもそも何故福島かということ、福島で参加したボランティアツアーが自分のイメージに近い旅行だったからです。農家の仕事をして一緒にご飯を食べ、仮設住宅の畑仕事を手伝ったり、お祭りに参加したり。暮らしに入って手伝いをして地元の人と交流し、自分たちも楽しいと思える旅行でした。そこで、旅行を企画した一般社団法人葛力創造社にインターンの申し込みをして、福島県と県外の交流事業でツアーを作ってみないかと受けていただきました。一つ一つの小さなコミュニティにまず来てもらって、そこから福島という大きな場所を好きになれる、地域に魅力を感じてもらえる旅行を作りたいのです。今は福島市の真綿織物工房で働いています。実際の仕事をしながら現場で必要とするもの、望むことを聞き出して、旅行という形で喜んでもらえるものを考えています。素人でもできる人手が必要な仕事を体験ツアーにしてみようとか、工房の古民家を蜜蝋でワックスがけするのを東京の学生へのプログラムにしようとか、感考旅行を作ろうとしています。5～8月にやっと企画が始まります。1泊2日で苗を植えて草むしりをし、真綿作りの仕事を手伝う体験ツアーで、福島を感じてもらいたいと思います。旅行者にも現地の人にも喜んでもらえる、旅行先・地元をもっと好きになる、日本中世界中が好きな人・場所のために考える、という風に思いを広げていきたいと頑張っています。全て留学の体験からきている気持ちで、そのチャンスをくださったロータリーに感謝をしています。

